



アメリカ・チャールストンの歴史を学ぶ

アメリカ研修の後半には、マグノリアプランテーションを見学しました。この10日間を過ごしたチャールストンの歴史と文化について学習し、その舞台となった場所を直接訪れることができたのは、とても良い経験でした。



[マグノリアプランテーション]

【マグノリアプランテーションを見学】

17世紀以降ヨーロッパ人によるアメリカ大陸への植民地経営が盛んになりました。チャールストンは貿易港として大いに栄えました。

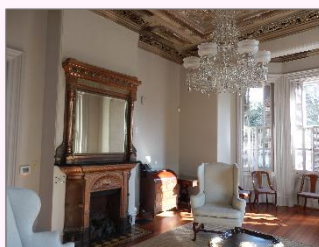
マグノリアプランテーションは1676年に Drayton family によって作られ、the Revolutionary War, the Civil War を経て現在は歴史的建造物として残っています。当時の農園主の貴族的な生活が偲ばれる広大な大邸宅と美しい庭園は、それを支えた奴隷制度についても考えさせられる場所でした。

私達が Ashley Hall 校の生徒達と寝食を共にした学生寮 ～ インターナショナルハウス ～

研修中の10日間は“インターナショナルハウス”という外国人留学生専用の学生寮で共同生活を送りました。19世紀の裕福な商人の邸宅を昨年、修復・再現した建物です。



[インターナショナルハウス]



応接間の家具も19世紀のもので、精巧で美しい修復は地元のメティアでも報道されました。

<http://www.ashleyhall.org>

ジェンダーに関する共同研究・パネルセッション

アメリカ研修の8日目には、アメリカで活躍する6名のキャリアウーマンを迎えてのパネルセッションを行いました。「女性のグローバルなキャリアデザインに対する課題解決プロジェクト」の集大成とも言える有意義な時間を過ごしました。



[ジェンダー観について意見を交換]
日本から用意してきたアンケートを元に、アメリカの高校生とジェンダー観について話し合いました。



[キャリアウーマンによるパネルセッション]
“女性のグローバルなキャリアデザイン”を実践している方々の考えを直接聞けるチャンスに、質疑応答タイムには沢山の質問をしました。



人生の先輩たちが、自らの経験に根差す貴重な話をしてくださいました。

【6名のキャリアウーマンによるパネルセッション】

パネラーとして、弁護士・耳鼻科医・カウンセラー・レストラン経営者等が一堂に会し、女性のキャリアデザインについてセッションを行いました。

彼女達が働く環境では、性別ではなくキャリアによって仕事と給与に差がつくそうです。仕事をする上で大切なことは“自らの成長”です。

建設的なフィードバックをする上司の存在とチームで助け合えることが良い会社の条件ですが、そうではなく自分の成長が見込めない会社であれば辞めるべきというご意見も伺いました。

これからの働き方としては、異文化に触れ、違いを認識した上で他の国の人もチームで働くことが重要になるだろうとのことでした。

家庭と仕事を両立しているパネラーの方もいらっしゃいました。家庭を持ちながら働くには夫の協力が不可欠であるとしながらも、「自分の仕事は自分が選択したのであり、多くの犠牲を払って働いているなどと思ってはいけません。ワークライフバランスは人によって異なるもので、仕事が好きだからたくさん働いているだけである。人は自由であり、人生は旅である」とおっしゃっていたのが印象的でした。

【まとめ】

この研修で、キャリアウーマンの方々の話を伺ったり、アメリカを代表する企業を訪ねたりすることで、キャリアデザインについての視野を広げることができました。また、異国で意見を発信し、自らアクションする勇気を持つことができました。何より Ashley Hall 校の生徒たちと、互いの違いを認識しながらも同じテーマについて考え、共同で研究できたことは貴重な経験となりました。異文化で育った私達が価値観を共有することにより、絆が生まれたと思います。この成果を日本に持ち帰り、「女性のグローバルなキャリアデザイン」について、更に研究を深めていきたいと考えます。